

(様式 1)

公立大学法人秋田公立美術大学
平成 2 5 年度 業務実績調書

平成 2 6 年 8 月

秋田市公立大学法人評価委員会

□ 全体評価

- ・ 事業の実施状況について
- ・ 財務状況について
- ・ 法人のマネジメントについて
- ・ 中期計画の達成状況について
- ・ 組織、業務運営に係る改善事項等について

□ 項目別評価

- 1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）

評価	
----	--

（特筆すべき事項等）

※以下同じ（全9項目）

□ 項目別実施状況

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（1 教育に関する目標）

（1）教育の成果に関する目標

卒業認定・学位授与方針（ディプロマポリシー）に基づき、次のような人材を育成する。

中期目標

ア 従来の芸術を理解し、それを新しい芸術として再創造できる人材

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由
ア 美術理論や美術史に関する体系的な教育により、従来の芸術や文化に対する理解を深めるとともに、地域の歴史的・文化的資源に対する考察や、表現媒体にとらわれない作品制作を通じて、新たな芸術的価値を創造する教育を行う。	ア 1年次に取得可能な美術理論や美術史などの専門共通科目を開講し、体系的なカリキュラム構成を実施する。			

1

中期目標

イ 文化の多様性を受け容れ、芸術において異文化と共存できる人材

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由
イ 教養科目群の「歴史と文化」における様々な授業を通じ、文化の多様性を受け容れ、柔軟な思考を育む教育を行う。	イ 教養科目群の「東北造形史」、「日本史」、「東北生活文化論」、「文化人類学」などを開講する。			

2

中期 目標	ウ グローバルな視野に立ち、国際的な舞台に挑戦できる人材
----------	------------------------------

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由
ウ グローバルな視野に立ち、国際的な舞台に挑戦できる人材を育成する教育 (7) 海外の美術動向や内容を積極的に取り入れた教育により、グローバルな視野と感性の涵養を図り、国際的な舞台に挑戦する教育を行う。	ウ 「英語による現代美術評論1」、「異文化コミュニケーション論」等の授業を開講し、海外での活動を視野に入れた教育を実践する。			
(1) 地域性、土着性の中から生まれた文化を、海外の美術動向や美術史の中に的確に位置づけ、そのうえでグローバルな視点による国際的な発信力を生み出す教育を行う。	エ 「東北造形史」、「東北生活文化論」、「美術理論・美術史」、「東洋美術史」、「デザイン史」、「工芸概論」、「日本美術史」、「西洋美術史」、「近代絵画史」、「現代芸術論」を開講することにより、地域に根ざした芸術・文化を、海外の美術動向や美術史の中に的確に位置づける教育を行う。			

3

4

中期 目 標	エ 芸術の新しい知見によって、地域社会の発展に貢献できる人材
--------------	--------------------------------

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由
エ 地域と密接に関わりながら、地域の課題に対し、デザイン的な視点による解決を提案するなど、地域社会の発展に貢献する教育を行う。	オ 地域からの芸術に関連した要望を積極的に学生に公開し、デザイン等の公募に参加させることにより、地域社会の発展に貢献する意識を醸成する。			

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（１ 教育に関する目標）
 （２）教育の内容等に関する目標教育の成果に関する目標
 ア 学生の受入れに関する目標

中期目標
 入学者受入方針（アドミッションポリシー）について積極的な周知を行い、次のような目的意識が高い学生の確保に努める。
 (ア) 芸術の未知の領域に強い関心を持つ人
 (イ) 自ら問題を発見し、積極的に学ぶ意欲のある人
 (ウ) 芸術分野で自立する意欲のある人
 (エ) 芸術を通して、地域社会の発展に貢献する意欲のある人

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由	
入学者受入方針（アドミッションポリシー）に沿った学生を確保するために、以下の項目を実施する。 (ア) 美術に対する意欲や関心の高い学生を確保するために、以下のような情報発信の機会を連携させ、認知度とブランドイメージの向上を図る。また、これらの活動の内容、発信時期、効果について検証を行い、効果の改善を図る。 【中期】 ・PR資料の配布 ・高校等への訪問 ・出張授業 ・オープンキャンパス ・進学ガイダンス ・高大連携授業 ・ホームページ ・冊子 ・その他対外対応等。	(ア) 入学者への入試に関するアンケート調査を実施し、入学動機等を分析する。				6
	(イ) 大学のカリキュラムを解説したPR映像を作成し、進学相談会のブースにおいて上映する。				7
	(ウ) 大学案内を作成し、進学説明会や高校訪問で配布する。				8
	(エ) 高校訪問時の聞き取りなどにより、高校側はどのような情報を求めているか調査する。				9
	(オ) 入学者選抜の概要を作成し、高等学校等に送付する。				10
	(カ) 高校を中心に予備校にも訪問し、担当教員へ積極的にPRしていく。				11

(キ) 主要都市で開催する進学相談会に参加し、本学のPRを行う。				1 2
(ク) オープンキャンパスを7月と9月に開催する。				1 3
(ケ) ホームページについて、大幅にリニューアルする。				1 4
(コ) 「大学コンソーシアムあきた」主催の高大連携授業を行い、大学の周知に努める。				1 5
(サ) 本学のPRを図るため、以下を行う。 ・受験生や高等学校教員の学校見学を受け入れる。 ・受験情報誌および受験生向けのウェブサイトの本学の情報を掲載する。 ・受験生等の往来の多いJR秋田駅構内に、定期的に本学のポスターを掲示する。 ・新聞に本学の広告を掲載する。				1 6
(シ) 高校生等にデッサン力向上のための実技の講習の場を提供する。				1 7

<p>(イ) (7) の機会に発信される内容を、入学者受入方針（アドミッションポリシー）、特色ある教育活動の計画、入試等の大学情報と緊密に連携させ、効果の向上を目指す。【中期】</p>	<p>(ス) 入学者受入方針（アドミッションポリシー）を様々な募集機会を活用しながらPRするとともに、大学の特色である、学科全体で募集する総合入試、1・2年次は専門科目全体を横断的に学ぶことなどについても合わせてPRを行う。</p>				18
<p>(ウ) 入学者の傾向を分析し、選抜試験の内容、方法、選抜区分、試験時期の見直しを継続的に行う。【長期】</p>	<p>(セ) 入試委員会に入試制度検証のための組織を設置し、入試結果の分析と入試制度の研究を行う。</p>				19
<p>(エ) ジャンルにとらわれない一括選抜（総合入試）を実施する。【25年度】</p>	<p>(ソ) 専攻のジャンルにとらわれない一括選抜（総合入試）を引き続き実施する。</p>				20
<p>(オ) 選抜試験および入学の時期について、様々な観点からメリット、デメリットの検討を行う。【中期】</p>	<p>(タ) 他大学の試験に関する情報収集を行い、選抜試験の検討のための準備を進める。</p>				21

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（1 教育に関する目標）
 （2）教育の内容等に関する目標教育の成果に関する目標
 イ 教育課程に関する目標

中期目標
 教育上の目的に沿った教育課程となるよう、不断の見直しと研究を行う。

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由
(7) 1・2年次では「教養科目」「専門共通科目」を通して総合的に学び、3・4年次では、主に「専門専攻科目」によって、より高度な知識や技術を学ぶ。 【25年度】	(ア) 1・2年次では「教養科目」「専門共通科目」を通して総合的に学び、3・4年次では、主に「専門専攻科目」によって、より高度な知識や技術を学ぶ教育体系とする。			
(イ) 卒業後の社会的自立のために「キャリア教育科目」を置く。 【25年度】	(イ) 卒業後の社会的自立のために「キャリア教育科目」を置く。			

2 2

2 3

<p>(ウ) 教員および学芸員の養成のために「教職課程科目」「学芸員課程科目」を置く。【25年度】</p>	<p>(ウ) 教員および学芸員の養成のために必要な組織を設置し、「教職課程科目」「学芸員課程科目」を置く。</p>			24
	<p><u>(エ) 教育実習等運営委員会を設置し、教育実習等に関する計画を立案する。(教育研究審議会、教育実習等運営委員会)</u></p>			25
	<p>(オ) 秋田公立美術大学実習連絡協議会を設置し、大学外の関係機関との連絡調整等を行う。</p>			26
<p>(イ) 各科目の連携を図り、科目区分、科目内容、履修方法等については、不断の見直しを行い、高度な教育が可能となる体制を整える。【中期】</p>	<p><u>(カ) 学内の入試委員会と広報委員会の連携を図り、効果的な入試戦略をたてる。(入試委員会)</u></p>			27
	<p>(キ) 教職員を対象とした広報活動・入試戦略等の説明会を行い、全教職員による効果的な広報活動に繋げる。</p>			28

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（1 教育に関する目標）
 （2）教育の内容等に関する目標教育の成果に関する目標
 ウ 教育方法に関する目標

中期目標
 (7) 教育課程の編成方針を十分に踏まえながら、学生が計画的かつ体系的に知識・技能・技術を習得できるよう、教員の相互連携、適切な授業内容の設定、指導方法の工夫および適切な成績評価を行う。

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由
(7) 学生が計画的かつ体系的に知識・技能・技術を習得できる教育 ・教員間で情報を共有し、相互連携を図るとともに、適切な授業内容の検討や指導方法の工夫を行う。【中期】	(ア) 学生が計画的かつ体系的に知識・技能・技術を習得できる教育 ・学内での研修会やFD委員会の事業、学内情報システムを活用することにより、専攻内を含めて、教員間で常に情報を共有し、授業内容や指導方法に関して検討する。 ・クラス担任や専攻教員で情報を共有し、学生指導の連携ができるような仕組みを検討する。 ・入学者に希望する専攻のアンケート調査を実施し、学生指導に活用する。			
・客観的で適切な成績評価が行われるよう、成績評価基準をシラバス等で明示する。【25年度】	・成績評価基準をシラバスに明確に記載する。			

29

30

中期 目 標	(イ) 学生が意欲的かつ主体的に学び、授業内容を確実に理解できるよう、多様で効果的な授業形態を研究する。
--------------	--

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由
<p>(イ) 学生が意欲的かつ主体的に学び、授業内容を理解できるような教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他専攻の教員を交えた講評会や研究発表会、ディスカッション授業、学外での成果発表（展覧会での発表を含む）やプレゼンテーション等、多様な教育方法によって、教育効果を高めていく。【中期】 ・他専攻の学生と交流できる共有スペースを整備する等、柔軟性のある施設利用につとめる。【中期】 	<p>(イ) <u>学生が意欲的かつ主体的に学び、授業内容を理解できるような教育</u>（教育研究審議会）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他専攻の教員を交えた講評会や研究発表会、ディスカッション授業、学外での成果発表（展覧会での発表を含む）やプレゼンテーション等、多様な教育方法によって、教育効果を高めていく。 			

中期 目 標	(ウ) 学生が価値の多様性を認め共有できる柔軟な思考を育むよう、多様なルートと出会う機会を積極的に取り入れる。
--------------	---

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由
<p>(ウ) 学生が価値の多様性を認め共有できる柔軟な思考を育む教育【中期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業でのフィールドワークや美術展・工房などを訪れる機会を設けるなど、学生が多様な価値観に触れるための取組を行う。 ・外部講師によるワークショップなど、多様で効果的な教育方法を積極的に取り入れる。 	<p>(ウ) 学生が価値の多様性を認め共有できる柔軟な思考を育む教育（教育研究審議会）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生が価値の多様性を認め共有できる柔軟な思考を育むため、フィールドワークや文化財・美術館・博物館・工房等の見学、対象地域の現地調査などを積極的に取り入れながら授業を行う。 ・外部講師によるワークショップやレクチャーを行うことで、多様で効果的な教育を行う。 			

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（1 教育に関する目標）
 （3）教育の実施体制に関する目標
 ア 教員の配置に関する目標

中期目標
 教育内容、教育方法等の充実を図るため、教員の相互交流や学外専門家の登用を積極的に行うなど、教員を適切に配置する。

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由
ア 教員の配置に関する目標を達成するための措置【中期】 (ア) 専攻間における教員の知識・技術の共有を推進し、カリキュラムとの連動を図る。				
(イ) 各専門分野に実績を持つ客員・特任教員の積極的な登用を図る。	(ア) <u>客員教授が効果的な講義ができるように調整やサポートを行う。</u> （教務委員会）			
	(イ) 学外の専門家を招聘するための調査を行う。			
(ウ) カリキュラム内容の見直しに応じて、専任教員や非常勤講師を適切に配置する。	(ウ) 専任教員や非常勤講師が効果的な講義ができるように調整やサポートを行う。			

3 3

3 4

3 5

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（1 教育に関する目標）
 （3）教育の実施体制に関する目標
 イ 教育環境の整備に関する目標

中期目標
 教育活動を効果的に行うため、施設・設備、図書、資料等の教育環境について、計画的に整備する。

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由
(ア) 施設、設備、備品、図書、資料等の教育環境の充実を図るために、中長期的な計画を策定し、実施する。【短期】	(ア) 長期修繕計画の策定に着手する。 【年度計画評価指標】 ・ 図書館蔵書冊数 46,170冊以上			
	(イ) 教育環境の充実を図るため、共通で使用する講義室等の設備について調査を行う。			
(イ) 教員が積極的に参加しやすいよう学内情報システムをリニューアルすることにより、授業関連情報などの共有と充実を進め、学生が利用しやすい情報環境を整備する。【25年度】	(ウ) 教員が積極的に参加しやすいよう学内情報システムをリニューアルすることにより、授業関連情報などの共有と充実を進め、学生が利用しやすい情報環境の整備を行う。			

36

37

38

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（1 教育に関する目標）
 （3）教育の実施体制に関する目標
 ウ 教育環境の評価および改善に関する目標

中期目標
 (7) 教育活動について自己点検・評価を行うとともに、外部評価や学生授業評価等の客観的な評価を実施し、その結果を教育活動の改善に活かせる体制を整備する。

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由
(7) 教育活動の評価および評価結果の活用 ・評価システムを構築する。 【短期】	(7) 教育活動の評価および評価結果の活用（教育研究審議会） ・教員の評価については、「教育」、「研究」、「社会貢献」、「学内運営」など多面的な観点による評価を取り入れることができるよう、教育活動の評価に関する評価システムの構築を進める。			
・教育活動について自己点検・評価を継続的に実施し、その評価に応じた取組方針の策定と改善を進める。【長期】				
・学生アンケートの結果を、教員の授業評価の参考指標として取り入れ、教育活動の改善に活かす。【25年度】 【中期計画評価指標】 ・アンケートの満足度評価4.0以上（5点満点）	・前期と後期で学生アンケートによる授業評価を行い、満足度評価4.0以上を目指す。（5点満点） 【年度計画評価指標】 ・アンケートの満足度評価4.0以上（5点満点）			

39

40

中期 目 標	(イ) 教育内容、教育方法等を改善し、教員の教育力を向上させるための組織的な取組（ファカルティ・ディベロップメント）を充実させる。
--------------	---

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由
(イ) 教員の教育力向上のための組織的な取組 ・組織的に教育力を向上させるため、ファカルティディベロップメント（FD）委員会を設置し、教員に対する各種研修や授業改善への取組を行う。【中期】 【中期計画評価指標】 ・FD取組事例数15件以上	・組織的に教育力を向上させるため、ファカルティディベロップメント（FD）委員会を設置する。 【年度計画評価指標】 ・FD取組事例数2件以上			
・より新しい状況に適合しうる適切な教育の評価基準を設定する。【中期】	・教育方法改善のため、教員相互の授業参観を試行する。			

4 1

4 2

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（2 学生への支援に関する目標）

（1）学習支援に関する目標

中期目標	学生の学習意欲や満足度の向上を図るため、十分に自主的学習ができるような学習環境や支援体制を整備する。
------	--

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由	
ア 学生が自主的な制作活動や課題に取り組めるよう、施設・設備の整備や利用時間延長など学習環境の充実を強化する。【中期】	ア 図書館の開館時間を午後8時まで1時間延長し、学習環境を充実させる。（短大に関しても準じる。）				4 3
イ 学生の状況をきめ細かく把握し、学習相談に応じるため、学生10名程度に対し1人の担任教員を配置する。【25年度】	イ 1学年を3クラスに分け、各クラスに3名の担任を設定し、学生10名程度に対し1人の担任教員を配置し、学生が相談しやすい体制を整備する。				4 4
ウ 学習一般について、学生が教職員に積極的に相談を行える体制（オフィスアワー等）を整備する。【短期】	ウ 各教員がオフィスアワーを設定するなど、学生の学習相談等に対応するための体制を検討する。（短大に関しても準じる。）				4 5
エ 成績優秀者の表彰制度やサテライトセンター等の有効活用による作品展示機会の拡充など、学生の学習意欲を高める取組を行う。【中期】	エ 成績優秀者を表彰し、奨学金を給付する。				4 6
オ 専攻変更の希望や相談を受け付ける機会を、一定期間設ける。【26年度】	オ 学生の作品展示場所として、アトリエももさだやサテライトセンターを活用するとともに、後援会による補助などを含め、展示のための支援を行う。（短大に関しても準じる。）				4 7

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（２ 学生への支援に関する目標）
 （２）生活支援に関する目標
 ア 生活相談および健康管理に関する目標

中期目標
 学生が心身ともに健康で充実した大学生活を送ることができるよう、生活相談や健康管理などの生活支援体制を整備する。

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由
(ア) 学生の心身両面での健康と生活上の諸問題に対応できるよう、定期的な健康診断と、臨床心理士や看護師による相談体制を整える。 【25年度】	(ア) 定期的な学生の健康診断を行うとともに、臨床心理士を採用し、看護師と一体となって学生の心身両面の相談を受けられる体制を整備する。（短大に関しても準じる。）			
(イ) 健康、生活に関する情報の積極的な提供により意識啓発を行う。 【25年度】	(イ) キャンパスガイドやポータルサイトなどを活用して、健康や生活に関する情報を学生に提供する。（短大に関しても準じる。）			

48

49

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（2 学生への支援に関する目標）
 （2）生活支援に関する目標
 イ 自主的活動の支援に関する目標

中期目標
 学生が学内外で自主的に行う課外活動を奨励するとともに支援する。

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由
(ア) 学生のサークル活動などの課外活動に対し、学生会、後援会と連携し、支援する。【25年度】	(ア) 学生会や後援会の要望を聞きながら、学生のサークル活動などの課外活動に対して支援する。(短大に関しても準じる。)			
(イ) 作品展示の機会やイベントの企画など、学生の自主的活動を奨励、支援する。【中期】	(イ) 作品展示の機会やイベントの企画など、学生の自主的活動を後援会と連携しながら支援する。(短大に関しても準じる。)			

5 0

5 1

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（2 学生への支援に関する目標）
 （3）進路支援に関する目標

中期目標	学生が適切に進路選択ができるよう、就職・進学活動に関する相談・支援体制を整備する。
------	---

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由
ア 就職、進学に関する強力な支援体制を整備する。 (7) 就職に関する専門スタッフを配置し、新たな就職先の開拓を行う。【25年度】。	ア 就職支援スタッフを2人配置し、新たな就職先の開拓ができるように、企業説明会への参加や企業訪問などを行い、企業が求める人材をリサーチする。（短大に関しても準じる。）			5 2
	(4) キャリア教育科目群における授業、企業関係者を招いたキャリアガイダンス、専門スタッフによるキャリアカウンセリングを行う。【25年度】。 【中期計画評価指標】 進路決定率100% （就職先内定者数+大学院等進学者数+作家活動）/卒業生数	イ 進路支援のため、「キャリアデザイン1」などキャリア教育科目の授業を行う。		
	ウ 就職支援スタッフによるキャリアカウンセリングを行う。（短大に関しても準じる。）			5 4
イ 学生への積極的な情報提供により、進路選択を支援する。 【25年度】	エ 進路ガイダンス、会社説明会および求人情報について、学内情報システムを活用し、学生に提供する。（短大に関しても準じる。）			5 5

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（3 研究に関する目標）

（1）研究水準および研究の成果等に関する目標

中期目標	ア 新しい美術領域の創造に資するための高度な研究や地域の歴史と文化に根ざした特色あるテーマに取り組む。また、研究の成果を体系的に蓄積し、有効活用を図る。
------	--

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由	
(ア) 「新しい美術領域を創造するための高度な研究」や「地域の歴史文化に根ざした特色あるテーマを扱う研究」などを、大学の重点的研究分野として定め、推進する。 また、文部科学省のCOC(Center of Community)構想などのような地域再生の核となる大学づくりを目指す。【長期】	(ア) 文部科学省のCOC(Center of Community)構想へ申請するための準備を進める。(理事会)				5 6
(イ) 研究の水準を高めるため、査読付論文の掲載、科研費等の外部資金の獲得、公的助成金の獲得、企業との共同開発、公的な美術館の企画による作品発表、美術やデザイン等の分野における公募への入賞等を奨励する。【長期】 【中期計画評価指標】 ・ 科研費申請数 50 件以上 ・ 科研費採択数 5 件以上 ・ 査読付論文の掲載数 10 件以上 ・ 公募の入賞数 10 件以上	(イ) 科学研究費等の外部研究資金の獲得に努める。そのため、教職員を対象とした科研費申請のための勉強会を開催し、科研費申請を積極的に行う。(事務局企画・評価室) 【年度計画評価指標】 ・ 科研費申請数 8 件以上 ・ 公募の入賞数 1 件以上				5 7
	(ウ) 美術館やギャラリーにおける教員の作品発表の推奨を行う。				5 8
(ウ) ホームページ上に教員の作品や論文を公開するなど、研究成果を社会へ還元するための仕組みづくりに取り組む。【長期】					

中期 目 標	イ 先鋭的な芸術表現の研究により、新しい芸術的価値を生み出し、世界に向けて積極的に発信する。
--------------	--

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由
(ア) 先鋭的な芸術表現に関する研究成果を、展覧会、シンポジウム等を通して広く国内外に発信する。 【長期】 【中期計画評価指標】 ・シンポジウム5回以上	/	/	/	/
(イ) 他分野の研究者や他機関と連携し、複合的、学際的領域の研究を推進する。 【長期】	(ア) 「大学コンソーシアムあきた」や、「秋田産学官ネットワーク」などを通して、他分野の研究者や他機関との情報交換を行う。			

中期目標	ウ 研究活動の評価を行い、研究の質の向上を図る。
------	--------------------------

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由
(ア) 既存の評価基準にとらわれな い、新たな研究の評価システム を構築する。【短期】	(ア) 評価が確立されていない分野 や研究に対する新たな評価のあり 方について検討する。			
(イ) 研究業績と研究計画に対する評 価に基づく学内研究費の配分を行 う。【26年度】				

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（3 研究に関する目標）
 （2）研究実施体制の整備に関する目標
 ア 研究の実施体制に関する目標

中期目標
 民間との研究交流の推進や、外部の優秀な人材の受入れ等ができる柔軟な研究体制を整備する。

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由
(7) 内部競争的研究資金を設ける。 【25年度】	(ア) 内部競争的研究資金として、 学内共同研究費を設定する。（教育研究審議会）			
(4) 外部競争的研究資金の積極的な 獲得を推進する。【長期】	(イ) 学外の競争的研究資金に関する 情報を教員へ周知する。			
(ウ) 外部の研究者を積極的に受け入れ、 交流するための体制を整備する。【長期】				
(I) 非常勤教員（特任・客員教員等）の 柔軟な登用により、大学として重点を置く 分野の研究を推進する。【長期】				
(オ) 社会貢献センターの機能を強化すると ともに、重点的研究分野等への取組みを 推進する。【長期】				

6 1

6 2

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（3 研究に関する目標）

（2）研究実施体制の整備に関する目標

イ 研究環境の整備に関する目標

中期
目標

研究活動を効果的に行うため、施設・設備、図書、資料等の研究環境について、計画的に整備する。

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由
イ 研究環境の整備に関する目標を達成するための措置【長期】 (7) 施設、設備、備品、図書、資料等の教育環境の充実を図るために、中長期的な計画を策定する。	(ア) 長期修繕計画の策定に着手する。			
(イ) 研修制度の導入を検討する。				
(ウ) サバティカル制度の導入を検討する。				

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（3 研究に関する目標）
 （2）研究実施体制の整備に関する目標
 ウ 知的財産の創出・活用等に関する目標

中期 目 標	研究成果の知的財産化とその活用を戦略的に実施する体制を整備する。
--------------	----------------------------------

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由
(7) 意匠登録等、研究成果の知的財産化に関する検討会を設置し、知的財産化に関する制度を構築する。 【長期】	(ア) 意匠登録等、研究成果の知的財産化に関する意匠権セミナーを開催する。			

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（４ 社会貢献に関する目標）
 大学の地域・社会に対する貢献を実効性あるものとするため、大学の研究成果を社会に還元することを目的として、次のような社会貢献事業を積極的に推進する。

中期目標	(1) 産学官連携の推進
------	--------------

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由
(1) 「産学官連携事業」として、大学に集積された美術の「知」を活かし、企業・行政・民間団体と共同で、美術に関する研究、アートプロジェクト、展覧会、商品開発等を実施する。【長期】 【中期計画評価指標】 ・産学官連携事業数20件以上	(1) 産学官連携事業を推進する。 （社会連携企画委員会） (2) あきたアートプロジェクト事業における秋田市プロジェクトに参加する。 (3) 各種団体等が開催する研修会等へ積極的に参加し、情報入手に努めるとともに、職員のスキルアップを図る。 【年度計画評価指標】 ・産学官連携事業数3件以上			

中期目標	(2) 知的財産の管理
------	-------------

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由
<p>(2) 意匠権等、知的財産の管理について、検討委員会を設置する。 【短期】 また、「知的財産の管理」に関する学生や市民向けのセミナーを開講し、美術・デザイン分野における意匠権の意義を広く社会に啓蒙する。【中期】</p>	<p>(4) 各種団体からの学生によるデザイン等の制作依頼に対応する。 （短大に関しても準じる。）</p>			

中期 目 標	(3) 地域連携の推進
--------------	-------------

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由
<p>(3)「地域連携事業」として、以下の項目を実施する。【中期】</p> <p>ア 地域コミュニティによる企画への参加・協力、アトリエももさだ、サテライトセンターを活用した教員の作品展などを通じて、大学・地元企業・自治体との連携を推進し、かつその質的向上を図る。</p> <p>イ 都市の空洞化等によって現在活用されていない建造物や空間を、美術によって再生、または有効活用することに取り組む。</p> <p>ウ 授業の運営法、スキルの取得法等を、美術以外の組織経営に適応するような汎用性の高いワークショップとして開発し、公開・提供・提案していく。</p>	<p>(5) アトリエももさだにおいて教員展を開催する。</p>			

中期目標	(4) 他大学との連携
------	-------------

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由
(4) 「他大学との連携事業」として、大学コンソーシアムあきたへの加入に伴う市民公開講座の実施、県内の大学との研究協力や学生交流、全国の美術系大学との連携などを行う。【長期】	(6) 「他大学との連携事業」として、大学コンソーシアムあきたへ加入し、各大学と連携する。			

6 8

中期目標	(5) 学校教育への支援
------	--------------

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由
(5) 「高大連携事業」として、高校生が大学の授業を体験する高大連携授業の開講、高校の美術教員による美術系大学進学実技講習会に対する開講支援を行う。【25年度】。	(7) 大学コンソーシアムあきたによる高大連携授業の開講、高校の美術教員による美術系大学進学実技講習会に対する開講支援を行う。			

6 9

中期 目 標	(6) 生涯学習への支援
--------------	--------------

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由
<p>(6)「生涯学習支援企画」として、以下の項目を実施する。</p> <p>ア こどもアートスクール、社会人アートスクール、デッサンスクール等を開講する。【25年度】</p> <p>イ 美術の社会教育を啓蒙するため、本学主催による美術登竜門の企画を行う。【長期】</p>	<p>(8) 子どもアトリエ、社会人向けデッサンスクール、アートスクール、デッサン講習会、公開講座を開講する。</p>			

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（5 国際交流に関する目標）
 学生や教員のグローバルな視点を育成するため、海外の大学等との交流を積極的に推進する。

中期目標
 （1）海外の大学との国際交流協定を締結する。

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由
世界の美術が多様化・多元化する中で、学生や教員のグローバルな視点を育成するため、本学の基本理念の実現に資する海外の大学等との交流を積極的に推進する。 （1）海外の大学との交流協定の締結を行い、教職員や学生間の交流を図る。【長期】 【中期計画評価指標】 交流提携大学数：3校以上	（1）海外の大学と交流協定を締結するために、候補となり得る大学について調査を行う。			

7 1

中期目標
 （2）学生の海外留学のための派遣制度や海外からの受入体制の整備を進める。

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由
（2）学生の海外留学制度や海外からの留学生向けのプログラムを準備するなど受入体制を整備する。 【長期】				

中期 目 標	(3) 教員の海外での研究活動を支援する。
--------------	-----------------------

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由
(3) 教員の海外での作品発表や研究活動を支援し、海外の大学教員や学生の作品発表や活動を積極的に受け入れる。 【長期】 【中期計画評価指標】 海外における作品発表等：3件以上	(2) 教員の海外での作品発表や研究活動について学内の支援体制を整備する。			

業務運営の改善および効率化に関する目標（1 運営体制の改善および効率化に関する目標）
 （1）効果的・機動的な組織運営に関する目標

中期目標
 法人全体としての方針の下で、効果的・機動的な組織運営を行うとともに、組織間での連携を強化する。

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由
ア 組織全体が情報を共有できる透明性の高い意思決定システムを構築し、組織間の意思の疎通を円滑に行う。【25年度】	ア 毎月理事会を開催し、学内の情報共有とスムーズで迅速な意思決定を行う。 イ 理事会、経営審議会、教育研究審議会の審議結果を公開する。			
イ 法人が適切な意思形成を行うため、理事会や各種委員会等、組織ごとの役割分担を明確にするとともに、理事長のリーダーシップの下、各組織が連携して組織運営を行うことができる体制を整備する。【25年度】	ウ 目的に沿った学内の12委員会を組織し、円滑な組織運営を図る。また、部局長等連絡会を組織し、情報の共有化を図る。			
ウ 各理事の役割分担を明確化し、効果的・機動的な組織運営を行う。【25年度】	エ 各理事の役割分担について規程で明文化し、関連する部分について情報共有や打合せを定期的に行う。			

7 3

7 4

7 5

業務運営の改善および効率化に関する目標（1 運営体制の改善および効率化に関する目標）
 （2）教職員の協働に関する目標

中期目標
 効果的・機動的な組織運営を進めるため、教職員の一体的かつ効果的な連携を強化する。

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由
委員会など各種学内組織を、教員と事務職員が協働して運営するなど、一体的かつ効果的な連携を進める。 【25年度】	学内委員会を教員と事務職員が構成委員となり、情報共有しながら協働して運営することにより、一体的かつ効果的な連携を進める。（短大に関しても準じる。）			

業務運営の改善および効率化に関する目標（2 人事の適正化に関する目標）

中期目標
 (1) 大学運営や教育研究活動を機動的に行うため、柔軟で弾力的な人事制度を構築する。

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由
ア 中長期教職員採用計画を策定し、適正な人事計画を行う。【長期】	ア プロパー職員の採用試験を公募により実施し、採用候補者を確保する。			
イ 公募制による教員採用方式を着実に実施する。【長期】	イ 助手の採用試験を公募により実施し、採用候補者を確保する。(教育研究審議会)。			
ウ 大学間の人事交流など、法人として柔軟で弾力的な人事制度を研究し、構築する。【長期】				

77

78

中期目標	(2) 組織の活性化を図るため、能力・意欲等が適切に評価され、教職員にインセンティブが働く人事評価制度を構築する。
------	---

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由
能力と意欲等が適切に評価され、教職員にインセンティブが働くような人事評価制度を構築する。【26年度】	事務職員については、秋田市の人事評価制度を活用する。			

79

中期目標	(3) 教員の評価については、「教育」「研究」「社会貢献」「学内運営」など多面的な観点による評価を取り入れる。
------	---

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由
教員の人事評価に関する評価指標として、「教育活動」「研究活動」「社会貢献」「学内運営」など多面的な観点から評価を行う人事制度を構築する。【26年度】	<u>多面的な観点から評価を行うために、「教育活動」「研究活動」「社会貢献」「学内運営」などを教員の人事評価に関する評価指標とする人事制度を検討する。</u> （教育研究審議会）。			

80

中期 目 標	(4) 戦略的な能力開発により、組織に必要な能力を持った教職員の養成を行い、組織力を強化する。
--------------	---

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	
人材育成基本方針の策定とそれに基づいた教職員の研修制度を構築し、研修を行うことで組織力の強化を図る。【短期】	ア 教職員人材育成基本方針を検討する。市からの派遣職員については、市の人材育成基本方針を準用する。				8 1
	イ 学生のメンタルヘルスへの配慮を目的とした教職員研修を行う。（短大に関しても準じる。）				8 2

業務運営の改善および効率化に関する目標（3 事務等の効率化に関する目標）

中期目標	(1) 効率的かつ効果的な事務処理を行うため、事務処理の簡素化、外部委託の活用を含め、事務組織および業務等について不断の見直しを行う。
------	---

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由
ア 事務組織全体について、事務処理のマニュアル化、簡素化等を進め、効率的な事務を行うとともに、継続的な見直しを行う。【中期】	規程、要綱のほか、取扱要領、基準などの事務処理のマニュアルを順次整備する。			
イ 外部委託が適切な業務については、外部委託を進めるとともに委託内容を定期的に見直し、費用対効果の向上を図る。【中期】				

中期 目 標	(2) 事務職員の資質向上のための組織的な取組（スタッフ・ディベロップメント）を充実させる。
--------------	--

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由
ア 業務分担（班）ごとに必要とされる能力を明確化し、業務に応じた研修プログラムの適用により、事務職員の資質および専門能力を高める。【中期】 。	ア 研修基本方針を策定し、スタッフ・ディベロップメント（SD）を実施する。市からの派遣職員については、市の研修計画に基づき研修を実施する。			
イ 大学経営に必要な情報を収集するとともに、その共有を行う。【中期】 。	イ 他大学から積極的に情報収集を行い、事務局内での情報共有を行う。			

8 4

8 5

財務内容の改善に関する目標（１ 外部研究資金その他自己収入の確保に関する目標）

中期目標	財政基盤の強化を図るため、科学研究費補助金等の競争的資金の獲得や、寄附講座の開設、共同研究・受託研究への取組などを推進する。
------	--

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由
（１）科研費など外部競争的研究資金について、事務局を中心に情報収集を行うとともに、研究資金獲得を推進する。 【中期】	（１）科研費など外部競争的研究資金について、事務局を中心に情報収集を行い、教員へ積極的に情報提供する。			
（２）社会貢献センターにおいて、企業や官公庁とのコーディネートを行い、受託研究事業や共同研究事業、寄附講座の開設などを推進することによって、自己収入を確保し、財政基盤の強化を図る。 【中期】	（２）産学官ネットワークに登録し、企業や官公庁とのコーディネートの可能性について産学官ネットワーク事務局と情報共有を行う。			

8 6

8 7

財務内容の改善に関する目標（２ 経費の効率化に関する目標）

中期
目標

効率的に大学を運営するため、教育研究水準の維持向上に配慮しながら、組織運営の効率化と人員配置の適正化を図る。

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由
（１） 管理的経費においては、事業の見直しや外部委託による経費の削減を継続的に行う。【中期】	（１） 物品購入について、翌月末の一括支払いを徹底し、振込手数料を最小限に抑える。			
（２） 物品や備品の調達における、一括契約、共同購入およびインターネットの活用などにより、効率的な調達を図る。【中期】	（２） インターネットの活用により、効率的な物品購入を行う。			

8 8

8 9

財務内容の改善に関する目標（3 資産の運用管理に関する目標）

中期
目標

資産の状況把握に努め、資金については安全な運用を行うとともに、その他の資産については効果的な活用を図る。

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由
（1）資金については、国債等の低リスク金融商品の利用などによる安全な運用を図る。 【中期】				
（2）その他の資産については、施設の有償貸付や美術作品の貸与など、有効活用を積極的に進める。 【中期】				

自己点検・評価および情報の提供に関する目標（1 評価の充実に関する目標）

中期目標
 自己点検・評価の実施体制を整備し、その結果を大学運営の改善に有効に反映させる。また、点検・評価の項目、方法、体制等について不断の見直しを行う。

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由
自己評価委員会を設置し、点検・評価の項目、方法、体制等について不断の見直しを行うために、長期的評価と年度ごとの評価を行う。 【長期】	自己評価委員会において、自己点検および評価の基本方針、実施基準等の策定について検討を進める。			

自己点検・評価および情報の提供に関する目標（２ 情報公開等の推進に関する目標）

中期目標	社会に対する説明責任を果たすため、法人の業務運営等に関する情報を積極的に公開するとともに、広く社会に対し大学の教育研究活動について情報発信する。
------	--

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由	
(1) 法人としての説明責任を果たすため、中期計画、財務諸表、自己点検・評価および外部機関評価の結果や法人規則などの情報を積極的に公開する。【中期】	(1) 大学ホームページにおいて、中期計画、財務諸表、法人規則などの情報を公開する。				9 1
(2) 大学の教育研究活動の状況については、ホームページや大学情報誌、公開講座等の各種広報手段を活用し、積極的に情報発信する。【中期】	(2) ホームページの大幅なリニューアルを行い、コンテンツを充実させ、積極的な情報発信を行う。 (広報委員会)				9 2
(3) 教員等の教育研究成果を、刊行物等により社会に発信する。【中期】	(3) 後援会の会報誌「エオスニュース」の制作支援を行う。				9 3
(4) 教員や学生の教育研究成果を積極的に展示する。【中期】	(4) 教員や学生の作品展示や紀要の作成を行う。				9 4

その他業務運営に関する重要事項に関する目標（1 施設・設備の整備および活用に関する目標）

中期目標	（1）良好な教育研究環境を保つため、施設・設備の適正な維持管理を実施する。 （2）施設・設備の効果的な活用を図るとともに、地域への貢献活動の一環として、教育研究に支障のない範囲で大学施設の地域開放を行う。
------	---

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由	
ア 定期的に施設・設備の使用状況を調査し、効率的な活用を図る。 【長期】	ア 長期修繕計画の策定に着手する。				9 5
イ 省エネルギー化、CO2削減に対応した設備の更新を行う。 【長期】					9 6
ウ 安全衛生教育を体系化し、教職員に対して訓練を実施する。 【長期】					9 7
エ 多様なリスクに適応したマニュアルを作成する。 【長期】	イ 防災対策マニュアルの整備を進める。				9 8
オ 情報セキュリティーに対する意識を高めるため、情報機器の利用に関するポリシーを策定し、教職員に対し研修等を行う。 【長期】	ウ 情報セキュリティーポリシーの策定を進める。				9 9

その他業務運営に関する重要事項に関する目標（2 大学支援組織等との連携に関する目標）

中期目標
 学外からの支援を充実させるため、卒業生による同窓会、保護者による後援会、地元企業等による支援組織との連携を図る。

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由
（1）学生・大学への学外からの支援を充実させるため、卒業生による同窓会や保護者による後援会との連携を強化し、情報共有や学生・卒業生に対するサポートを協働して行う。【中期】				
（2）地元企業等との連携のための支援組織を設置し、学生の就職に関する情報交換や、ワークショップ型授業、インターンシップへの協力など、大学の活動全般に対する学外支援の充実を図る。【中期】	企業等による大学支援組織を発足させる。			

100

その他業務運営に関する重要事項に関する目標（3 安全管理に関する目標）

中期目標
 学内の安全と衛生の確保のため、事故等の発生予防に努めるとともに、災害や事故発生に迅速かつ適切に対応するための危機管理体制を整備する。

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由	
(1) 工作機械等の定期点検や取扱いに関する安全講習、設備ごとの管理者の配置などにより、事故等に適切に対処できるような安全管理体制を確立する。【25年度】	(1) 衛生委員会を設置し、教職員の安全衛生に関する意識向上を図る。(短大に関しても準じる。)				101
	(2) 工作機械等の定期点検や取扱いに関する安全講習、設備ごとの管理者の配置などにより、事故等に適切に対処できるような安全管理体制を確立する。(短大に関しても準じる。)				102
(2) 事故、災害、感染症等緊急時に対応する危機管理マニュアルを作成し、教職員と学生への周知と意識啓発を行う。【25年度】	(3) 事故、災害、感染症等緊急時に対応する危機管理マニュアルを作成する。(短大に関しても準じる。)				103

その他業務運営に関する重要事項に関する目標（４ 人権擁護・法令遵守に関する目標）

中期目標 健全な教育研究環境を確保するため、ハラスメントの防止等人権擁護や法令遵守について、教職員の意識啓発を図るとともに、相談体制やチェック体制を整備する。

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由
(1) ハラスメントの防止を図るため、研修等による学生・教職員への啓発活動を継続的に実施する。 【25年度】。	(1) ハラスメント防止対策委員会で教職員へハラスメントに関する研修を実施する。(短大に関しても準じる。)			
(2) プライバシーの保護に配慮した相談窓口の設置や研修を受けた相談員の配置により、ハラスメントに関して相談しやすい環境を確保するとともに、相談後のフォロー体制を整備する。【25年度】	(2) カウンセリングルームの活用等により、プライバシーの保護に配慮した相談を行う。(短大に関しても準じる。)			
(3) 適切な会計処理を行うため、経理の透明化を図るとともに、経理のチェック体制の整備やガイドラインを策定する。【25年度】	(3) 経理事務マニュアルを作成するとともに、契約事務を行う職員と出納事務を行う職員とを明確に分離し、相互牽制機能を維持する。また、管理職用の経理事務チェック表を作成し、決裁時に確認漏れが生じないようにする。			
(4) 不正経理の防止を図るため、コンプライアンス研修を実施し、教職員の遵法意識の醸成に努める。【25年度】	(4) 不正経理の防止を図るため、外部講師を招聘し、教職員に対するコンプライアンス研修会を実施する。(短大に関しても準じる。)			

104

105

106

107